

対ベトナム円借款「ラックフェン国際港建設計画（橋梁部）」起工式

在ベトナム日本国大使館

2月15日（土）、ハイフォン市ディンブー工業団地において、グエン・タン・ズン首相、ディン・ラ・タン交通運輸大臣、深田博史駐ベトナム特命全権大使等が参加し、ラックフェン国際港建設計画（橋梁部）の起工式が行われた。

この計画は日越両国の「戦略的パートナーシップ」の下、両国首脳クラスのリーダーシップにより決定され、日越両国企業の合併により実施する、日越間で初のPPP案件です。ラックフェン港の整備により、外洋の長距離航路に投入される国際コンテナ船が入港出来るようになり、ベトナムの産業の国際競争力を高め、ベトナムの工業化、産業発展に大きく貢献することが期待されます。

（大使スピーチ別添）

（了）



深田博史大使



グエン・タン・ズン首相

（別添） 2月15日ラックフェン港（橋梁部）起工式 深田大使挨拶

本日、ラックフェン港橋梁部の着工式に臨むことを、大変嬉しく感じております。まずは本着工式の開催にご尽力頂いた関係者の皆様、特にズン首相とタン交通運輸大臣のリーダーシップに心から感謝と敬意を表したいと思います。

このラックフェン港のプロジェクトは、日越の「戦略的パートナーシップ」の下、両国首脳とのリーダーシップにより決定した大規模 ODA 案件です。また、栈橋や荷役機械等の整備・運営をベトナム企業と日本企業の合弁により実施するものであり、日越間で初の大型 PPP 案件であるという意味で、大変意義深いプロジェクトであるとともに、8000TEU クラスの大型コンテナ船が着岸可能で、ラックフェン港は地域のハブ港湾として機能することが期待されています。

昨年12月のズン首相の訪日時には、安倍総理より、第2期目となる円借款のプレッジ（380億円）をさせていただいたところです。また、港湾部分は昨年4月に既に着工されておりますが、PPPの民間部分を担う日越合弁企業の合弁契約も昨年末に完了し、本日、橋梁部分の着工が出来るということで、いよいよ本事業の推進体制があらゆる面で整ったことを実感しています。

近代産業国家の歴史において、経済的発展は十分なインフラが必要不可欠です。ラックフェン港の完成は、ベトナムの更なる経済発展の起爆剤になることは疑う余地がありません。こうしたベトナムの発展に我が国の援助が貢献していること、大使として大変誇りに思っております。

日本政府は、本プロジェクトを含むラックフェン港全体の建設プロジェクトの完成に向けて、引き続きベトナム政府及び合弁企業及び関係機関と緊密に協力・連携していきたいと考えています。また、港が完成したあかつきには、ベトナム政府において大水深港として期待された機能が確保されるようご尽力を期待しております。今後さらに、両国の強固な関係が深まることを祈念し、私の挨拶とさせていただきます。